

## 事業原簿（ファクトシート）

作成日：平成25年4月1日作成  
更新時期：平成26年8月 現在

制度・施策名称				
事業名称	環境・医療分野の国際研究開発・実証プロジェクト／シンガポールにおける国際共同研究開発・実証事業	PJコード：P12007		
推進部	国際部／バイオテクノロジー・医療技術部			
事業概要	産業技術分野を対象に、日本とシンガポールの双方が自国の企業・研究機関を支援し、双方にとって価値を生むイノベーションの創造を目指す。本事業は、「パラレルファンディング」のフレームワークを構築し、海外展開を目指す日本企業の国際共同研究開発研究・実証の支援を行うものである。			
事業の位置づけ・必要性について	パラレルファンディングでは、日本は日本の企業・研究機関を、相手国は相手国の企業・研究機関を支援する。NEDOはシンガポール国家研究基金（National Research Foundation：NRF）との間で研究開発に関する包括的な覚え書きを締結している。本事業はこの枠組みを活用し、海外展開を目指す日本の企業の国際共同開発研究・実証を支援することで、新たな価値を生むイノベーション促進を目指すものであり、NEDOが取り組むべき新しい試みとして重要である。			
事業の目標	日本・シンガポールのコラボレーションによる効用を十分に活用し、単独の活動よりも優れた成果を生み出すことを目標とする。			
事業規模	事業期間：平成24年度～平成25年度			
	契約等種別：委託			
	勘定区分：一般勘定 <span style="float: right;">[単位：百万円]</span>			
		～H24年度 (実績)	H25年度 (実績)	合計
	予算額	14	400	414
	執行額	14	-	14
情勢変化への対応	平成24年度に公募を実施し、NEDOは3件の提案をフィージビリティスタディ（FS）として採択。当該FSの結果を基に、平成25年度に外部有識者による審査を経て、本格的事業への移行は実施せずFSにて終了することとした。			
評価に関する事項	評価時期及び方法（外部評価又は内部評価、レビュー方法、評価類型） ・毎年度評価：内部評価			
事業成果について	シンガポールNRFとの国際共同研究開発研究・実証の枠組みを構築すると共に、実運用（公募、採択、3件のFS実施等）を行うことで、制度の効率的及び効果的实施に向けて有益な知見を得ることができた。			

平成25年度 事業評価書

平成26年10月3日作成

制度・施策名称		
事業名称	環境・医療分野の国際研究開発・実証プロジェクト／シンガポールにおける国際共同研究開発・実証事業	PJコード：P12007
推進部	国際部	
総合評価	<p>本事業は、「パラレルファンディング」のフレームワークを構築し、海外展開を目指す日本企業の国際共同研究開発・実証の支援を行うものであり、新たな価値を生むイノベーション促進に直結する試みとして、画期的なものであった。</p> <p>FSの結果、3件ともNEDO側では本格的な事業フェーズには移行しないこととなったが、一部の案件がNRF側から採択される等の効果が得られた。これは本事業で行った公募が、海外展開を目指す日本企業にむけた情報発信の機会として機能したことを示していると考えられる。</p> <p>今後のパラレルファンディング型での国際共同実証事業の効率的で効果的な実施に向けて有益な知見を得ることができた。具体的には以下のような改善策が有効だと考えられる。</p> <p>(改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業ニーズの更なる発掘のため、公募開始前の段階からNEDOホームページ等を活用して企業ニーズの掘り起こしを行う。また相手国企業とのマッチングの機会についてNEDOが提供できる手段を検討する。</li> <li>・両国の企業・機関による共同での研究開発/実証案件を成立させるためには、両国のファンディング機関の支援対象フェーズの合致や相補性が重要であることから、相手国機関の選定にあたっては当該機関の支援対象フェーズの確認、NEDOの事業目的との適合性等について検討する。</li> <li>・両国の企業・機関による共同での単一提案を審査することになるため、両国ファンディング機関における審査基準はできる限り、共通化することが望ましい。公募開始前におけるNEDOと相手国カウンターパート機関との協議においてはこの点に留意し、可能な限り審査基準の共通化を図るよう交渉する。</li> </ul>	
評価詳細	<p>1. 必要性（社会・経済的意義、目的の妥当性）</p> <p>日本の産業技術分野における技術水準は世界的にも高い位置にある。しかし、これらの技術をグローバル市場に勝ち残るためのイノベーションにつなげるためには、実用化を見据えた研究開発が不可欠であり、成果をタイムリーに国内・海外に発信できる体制も必要である。また、実用化対象を早期にグロー</p>	

バル市場に投入し、市場における優位性を確保するためには、研究開発・実証の一連の活動をスピード感をもって行うこと、当初からグローバル市場を視野に入れ十分に情報収集すること、一連の活動を行いやすく成果の情報発信しやすいサイトを活用することなどが有用であることから、本事業は社会・経済的意義があったと考えられる。

なお、本事業は、NEDO とシンガポール国家研究基金（National Research Foundation：NRF）との間で締結した包括的な覚書を活用して実施したものであり、「パラレルファンディング」のフレームワークを構築し、海外展開を目指す日本企業の国際共同研究開発・実証を支援するものであり、新たな価値を生むイノベーション促進を目指す新しい取組として、NEDO で実施する意義があった。

## 2. 効率性（事業計画、実施体制、費用対効果）

NEDO が単独で費用を負担するのではなく、相手国も相応に費用を負担する新しい試みを取り入れている。これにより、相手国の研究リソースを活用し、単独で得られる以上の成果を期待できる。また、相手国の参画意欲も高く維持されると想定される。

FS の結果、3 件とも NEDO 側では本格的な事業フェーズには移行しないこととなったが、一部の案件が NRF 側から採択される等、以下のような効果が得られた。これは本事業で行った公募が、海外展開を目指す日本企業にむけた情報発信の機会として機能したことを示していると考えられる。

また後述するとおり、今後のパラレルファンディング型での国際共同実証事業の実施に向けて有益な知見を得ることができた。

・日本企業 A 社は本事業に応募し、NEDO 側では採択に至らなかったが NRF に提案内容を認められ、NRF から支援を受けることが決定し、シンガポールにおける事業を展開中。

・日本企業 B 社は本事業への応募をきっかけに NRF からシンガポール内の他の政府機関の助成制度を紹介され、申請を検討。

## 3. 有効性（目標達成度、社会・経済への貢献度）

24 年度に実施した 3 件の FS は、結果として本格的な事業に移行しないこととなったが、前項記載のような事例は、本事業で行った公募が、海外展開を目指す日本企業にむけた情報発信の機会として機能したことを示している。また今後の事業スキーム検討に向けて有効な示唆を得ることができた。

## 4. その他の観点

特になし